成人向け
R18
ADULT ONLY
18歳未満
購入・閲覧禁止
少女襲ってみた
～大雨が悪いンじゃない～

ザーーーッ
うぇ～…ずぶ濡れたぁ～
わしゃ
わしゃ
わ～
ダダッ
たんっ
ふ～
ぱた
ぱた
ドッジャッ
夕方、俺の目の前にソレは突然だった―

ただいま無職の30歳
のんきな散歩中で

わー…

ニコ

んあ？

フキフキ

突然の土砂降りに
雨宿りしていた

トクン…

あ…っ

そそそっ

ぎゅっ

ぴくっ

ぴくっ

ジャリ

あ…

あれはー…
あの子はー…
あのー
すっ
ジャッ
ビクッ
しゅっ
時々散歩ですれ違う明るくて…可愛い…
俺のー
ねーアンおじさん
きゃっ
きゃっ
ずっと見てるこわい
初恋の子と同じ名前の
つやっ
わたし空手習ってるからーワンパンよーっ
ぴゃっ
にぎ
にぎ
明日香ちゃん…
サラッ
わたしにまかせてっ
守ってあげるよー
あすかちゃん
すごーい
すてきー

気になって目で追いかけるように―
彼女を見たくて散歩も増えて会社を辞めて引きこもりがちな俺を救って…助けてくれた
はぁぁ～…見てるだけでいいのに

…良かったのに

あ―…
んにんに…
濡れるけど帰ろっと

あっ
ま、そりゃそうかけん制されるわなぁー
ははは
たっ

そんなつもりなかったンだよ
ドン
ゴロゴロゴロ
あッ
はな…っ
やあっ
いヤッ
ザザーッ

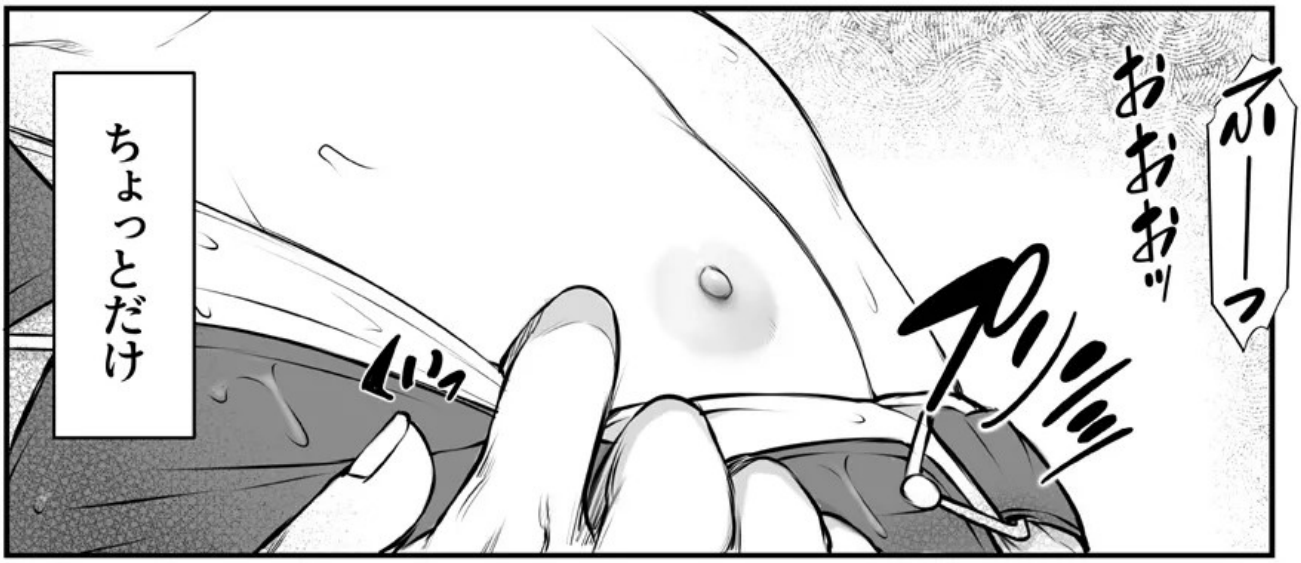
ヤッ
ザッ
はなして
いやっ
ザッ
ラあぁ
雨が彼女の声をかき消してしまう
いやあああッ
ヤッ
だれかっ
ヤッ
だっ
はぁ
ラー
ズ…ザ…
プルプル
ゼー
ゼーッ
あ…
ゼー
あ

大人しくなった

…体力が尽きたのか

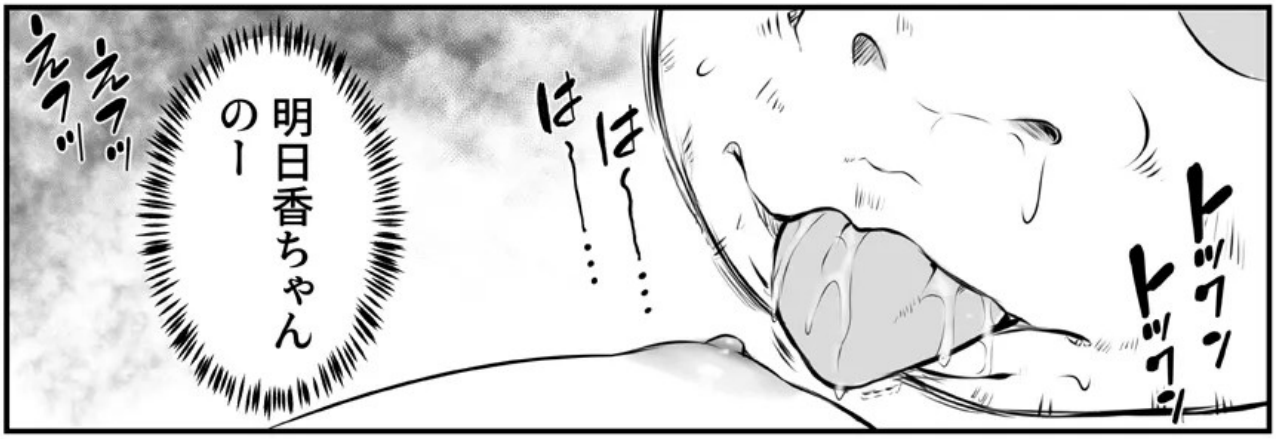
この温もりで俺は十分で―

でも
ちょっとだけ
ラッ
ラッ
ギリッ
は——……
は——……


ふ——っ
おおおッ
ちょっとだけ

い
あ…
プルプル

ブフ——ッ
えふ・えふ
はあああっ
ドキドキドキ



ばしゃっ

あ～…泥だらけ
ガク
ガク
あ
ぐてっ
ぐへぐり
ぐ…
ぼっ
じゃりっ
じゃりっ
ざりざり
ちょっとだけだったのに…
あっ
ふりん
ザザッ
ザザッ
ズリィッ
ドドッ
ドドッ

ブルルッ
ガクン
ふやっ
ブルルッ
ん
ぶしゅ
ドバッ
ドバッ
ザザザッ
ドバッ
ジャッ
ジャッ
しょ
ガバッ
はあ〜
ガバッ
ダラン

別に泥をぶつけられたコトを怒ってないけど
いや
ハンッ
ハンッ
ひっ
ハンッ
ハンッ
やっ
うあぁ
これ以上汚れてしまう前に──俺へ想い出を、少しだけでも
お願いッ
ビッ
アッ
ビッ
ビッ
アッ
ビッ
ビ──ッ
アッ

ボロン
ちゃっ
シビー

ぎゅっ
ゴリ ゴリ
ずりっ ずりっ

ガクガク
ひっ

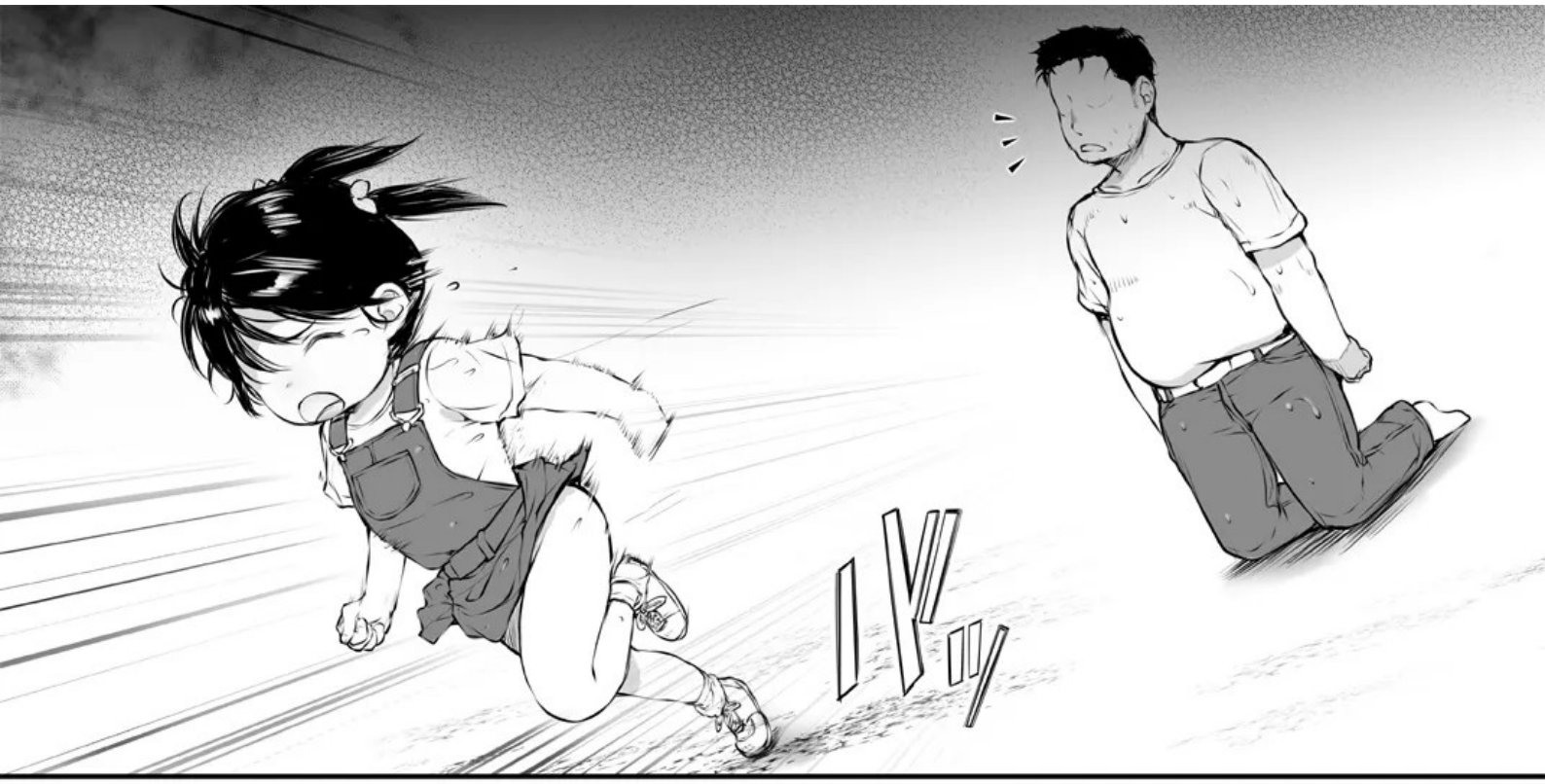
ッ——ッ
温いよ…っ

ぬりぃぃん
…入らないっ
んくっ
ぬっちゃ
ぬっちゃ
なかなか…ッ
ポタ
ポタ
ちかん？
そーゆー時はぁ
キラッ
サラッ
好きだったー
もやもや…
ぴらっ
こーやって
まわしげりー
あすかちゃん
つよーい
あの子のー
すらっ
もやもや…
はっ
はっ
はっ
はっ
にゅりんっ
にゅりんっ
ガクガク

そう思うと俺は
たまらなく
たまらなくて
あああ
びくっ
びくっ
びくっ
びくっ
ガクガクガクガク
ブルブル
ブルブル
ビクビクビクビク
ブリュリュリュ

ぶしゅっ
ぶしゅっ
ビクッ
ビクッ
ブーッ
ブーッ
ひっ
あっ
ガクッ
ガクッ
ラ
ぎゅ
ウッ
びくん…
びくん…
ビクッ
びゅっ
びゅっ
びゅっ

はあッ
俺は何てコトをー
はあッ
いやッ
何もしてはいないけど
まだッ
もやもやあ…
あ…
しょうらいは婦警さんになるのー
かっこいー
あすかちゃんならなれるよー
遠くから見てるだけでゼンゼン満足だった
ゴメンね…ちょっとだけ話をー
ダッ



後悔したんだ

はあっ
はあっ
ママ…っ
ただいま…
えっと
何時だと思って…！
バタン
フルッ
ドロ…
ジとっ
くっ
きゅっ
ずぶ濡れじゃないっ
どうしたのっ？
とにかく早くおフロへ入っちゃいなさい
もぅ
ヤンチャなんだからぁ
あのね…
聞いてっ
あとあとっ
ツー

ゴゥン
ゴゥン
ガタガタ
ポイッ
ペチ
す……
チャポ
しみ……
カポーン
ぱらっ
ふ――……
ぱレぱっ
ん……っ
ん～……
ぐっ
ぐっ
ぱっ
チャP

ぼゃ
あ…
ブー
ブー
ウッ
ガレィ
ぎゅッ

ソッ
う…

ドックン
ドックン
ドックン…

んっ
きゅっ

ちゃんと
まっさつしてもらわなきゃ
ガンメンなぐっておけば良かった
ママー？
ぎゃぼーっ

ガタガタ
バタバタ
ギッ
ギッ
ギッ
やあ
足、早いね明日香ちゃん
けっこうタイヘンだったよ
パパ…っ
ママ…ぁ
風呂あがりイイネっ

俺は後悔したくなかった

あれで終わりだなんてー

だから

カクゴしたんだ…っ

フシューー
フシューー

部屋に行こっか？

ブルブルブル

そわっ

あ…

あ

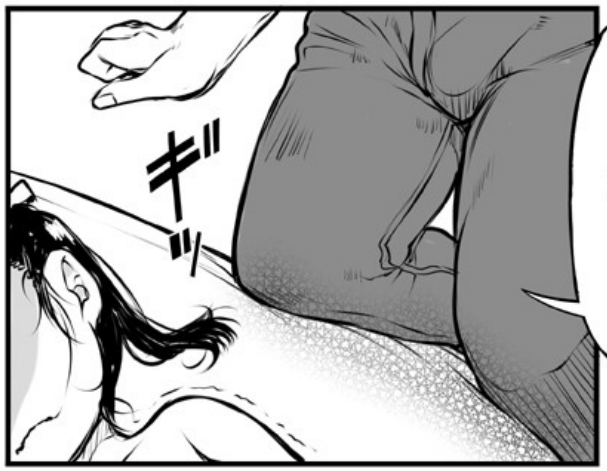
ポタ

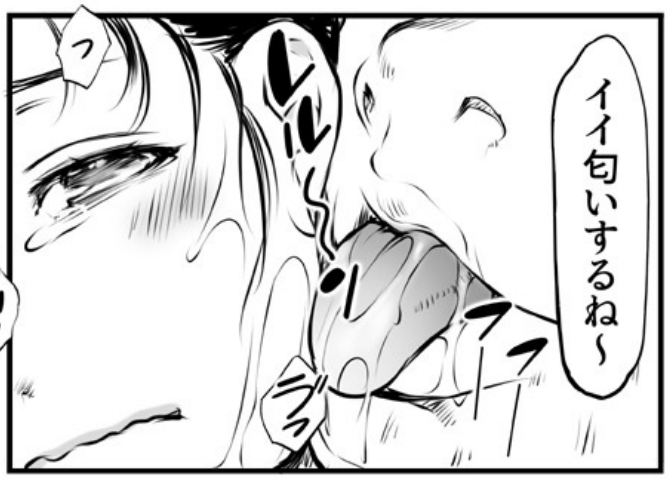
ポタ

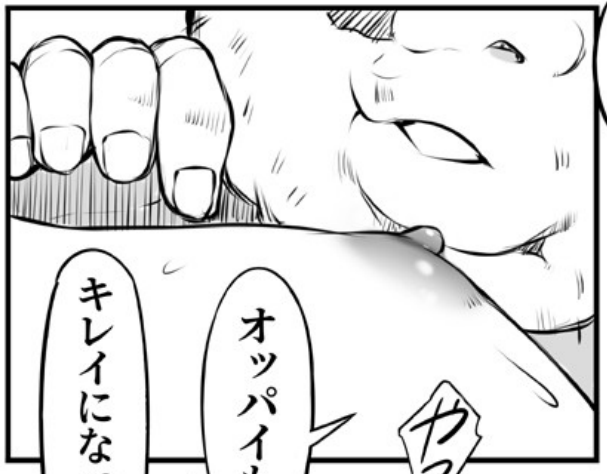
ぴサッ

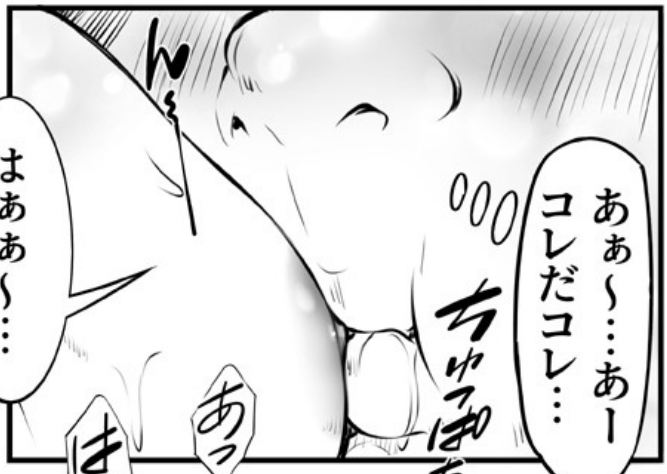
キュッ
キュッ
ぞわっ
ぞわっ
だいじょうぶ
ヒドイことなんて
しないよ
パパとママが
どうなるかはね
はー
はー
びくっ
やっぱりそうしたほうが
明日香ちゃんらしいっ
フルフルフル
ここが明日香ちゃんの部屋かぁ~
明日香ちゃん
次第さっ
ーア
ーア
ーア
ーア

とさっ
ラッ
ぶるっ
はぁ〜
はらっ



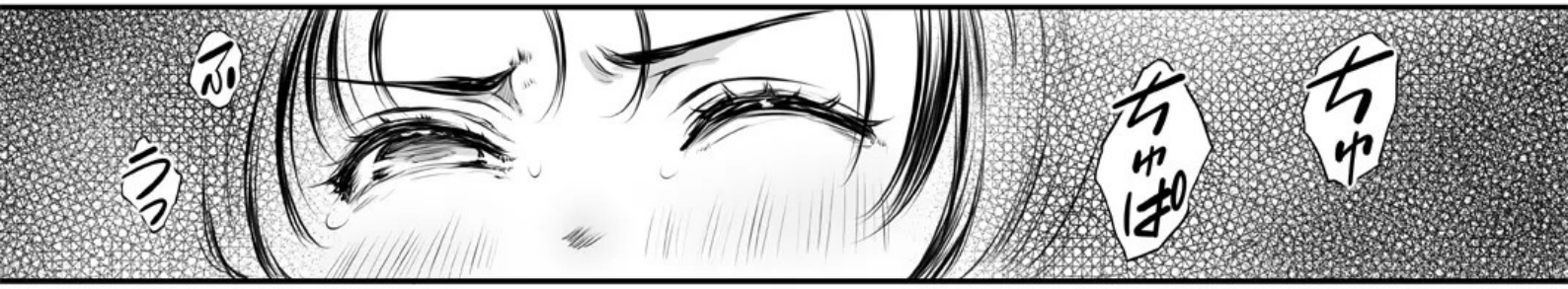






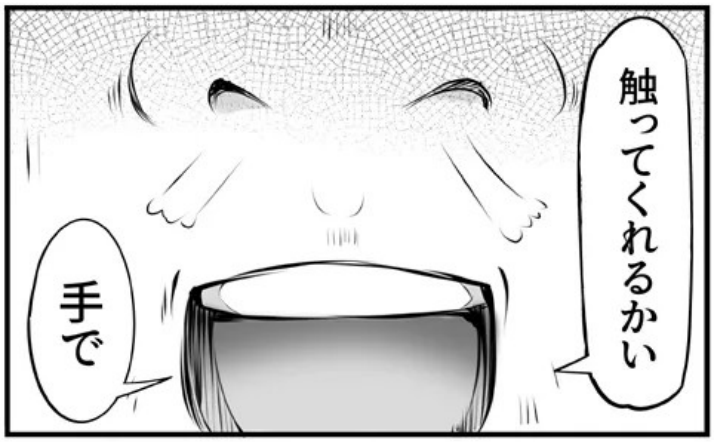
甘〜あ…

あ〜行動して良かった
後悔するところだった



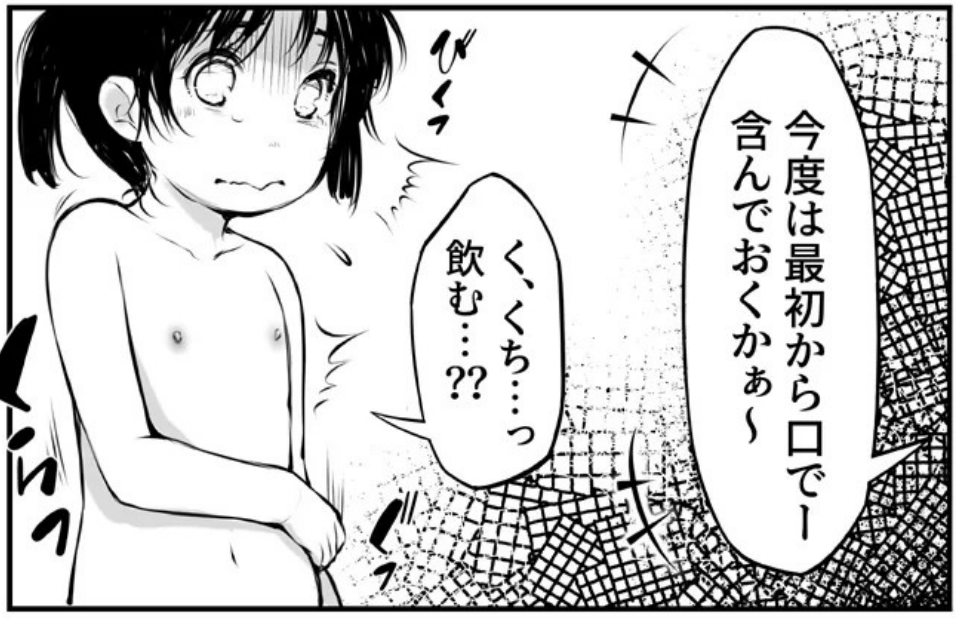
俺はカクゴ
腹が決まったのだ

あ…
あ…
フーッ
フーッ
びくん
びくん
ぶるっ
ぶるっ
がくっ
がくっ
てっ
ぺた



ん…
包むようにそうイイね！
おっ
すっちゃ
ふわっ
つたないトコもそれはそれでー
ハァーハァ
おっ
おふっ
ふわっ
すっちゃ
もっと前後に
でもゆっくりで
こレっ
こレっ
しゅっ
しゅっ
ふるるっ
こ、これで
こんなので…
おっ
ふっ
んおっ
ママとパパを…助けられる？
あの
あっ
コレならー
ちゅっこ
ちゅっこ

うんうんっ
あぁ～モチロンだよ…お
おっ
おっ
ほ～っ
ぷラ
るるっ
るるるる…
はぁ
はぁ
あぁ～…
はぁぁ～
しゅっ
しゅっ
ビクッ
ビクッ
少女から一方的にチンポを―
おわ
俺のッ
アっ
出るっ
ぷうううう～っ
ガクガクッ
口に！
えっ!?
どぴゅん
びんッ
ブルルン
ひうッ

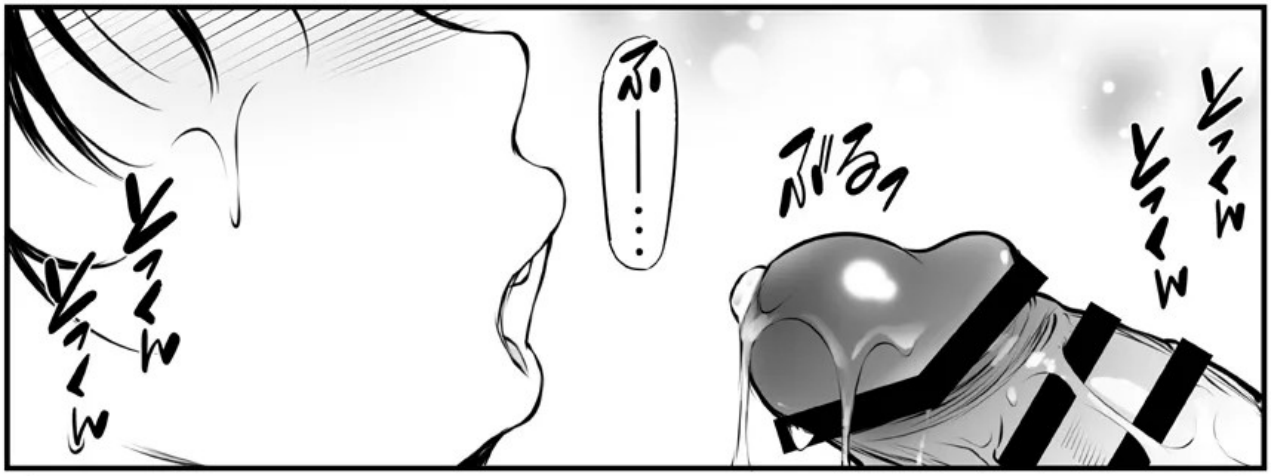


さぁ、もう一度

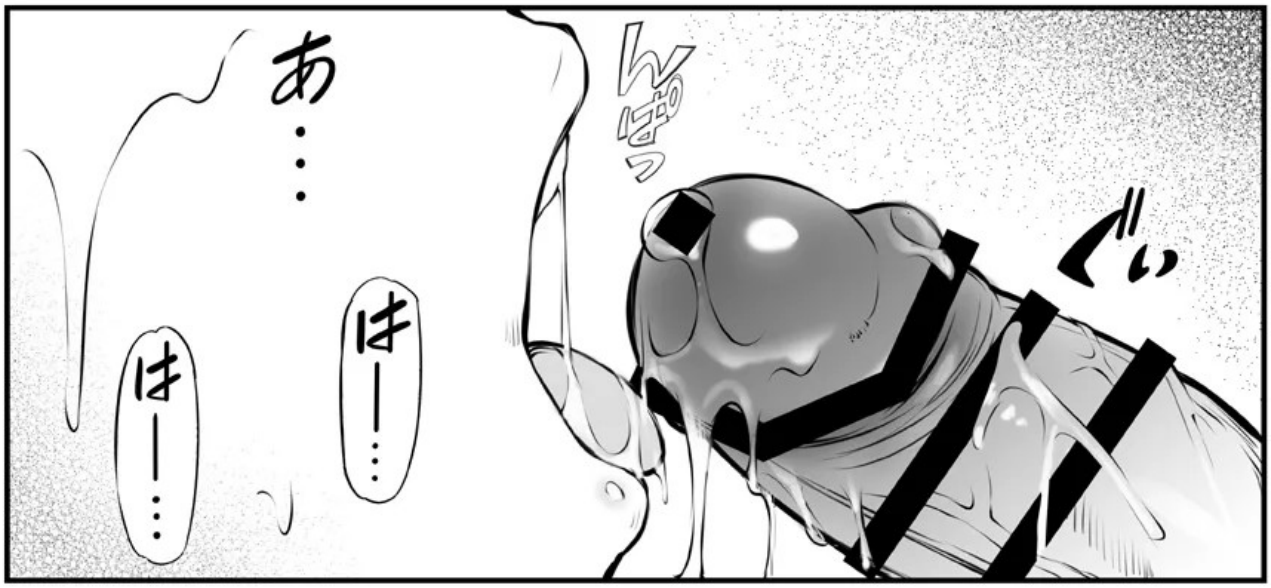
ハーア

ハーア

口って…
そんな…
うそ…
おらっ
おらっ
ビビッ
ブルッ
ぴくっ
う…っ
うっ
うえっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
ぶるっ
葛藤してる、うつくしい…
見られて良かった、想い出ぇ
あ…
あ…
フー
フー
パパとママの
ためにも、ね？
はっ



お、お…おっ

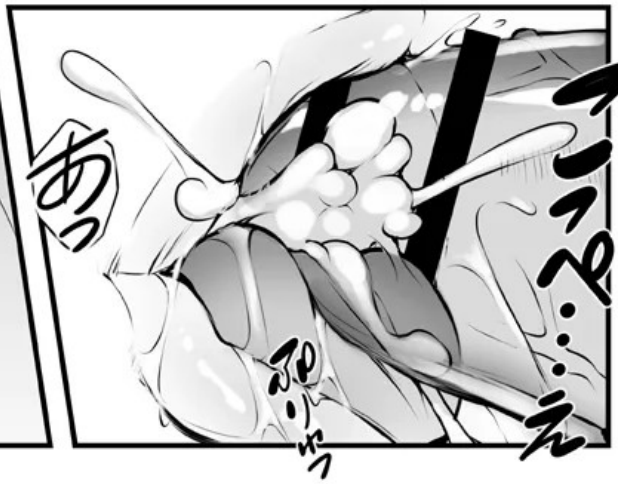


あ、あああぁー…

ギュッ
ギュッ
ぬっ
ぬっ
ずっぽ
ずっぽ
ずっぽ
ずっぽ
グッ
グッ…
ぐっぽ
ぐっぽ
ぐっぽ
ぐっぽ
ぶしゅう
キュッポ
キュッポ
プポッ
ボポポポ
ぐあッ
ぐあッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ラーッ
ラーッ
ラーッ
ハーッ
カワカワカワ
ハーア
ハーア
ちっ

あっ
ぐぐっ
ぐぐん
ガッシ
ぎゅ〜〜〜〜
ビクン
ビクンッ
ああぁぁー！…
えっ
おっ
おごっ
ごっ
ほぁ〜〜〜っ
は〜〜
は〜〜
ずぽっ
ぷぷっ
ぐぽ
ごっえ

あっ
もっ
わっ
出っ
ドビュッ…!!
ガッ
あすっ
明日香ちゃん…ッ
ガコ
ガコ
あすっ
ギュッ



感動の
即出し…い

あ
ラ
えっ
あ…っ
えっ

…にがっ
うえぇ
んぺっ
けぷっ
あっ
やっ
はっ

こぼしたね～
ぬっ
ビクッ

ラーーん
ラっ
ラっ

まぁいいかぁ
素直にガンバってくれたし

最後にー

ハグしてくれる？
…最後だから

ふー

ふー

もっ

ふるっ

ゆっ

これから大変な目に遭う
俺のためにー

でも…

…どうせ通報？されるんだー

……

はあ

ここまできたら

はあ

ひぐっ!?
びくん
お
ぎゅっ
びくっ
ぎっ
ぐっ
ずぶぶぶぶ
ばっ ばっ
お——
がっぎ
ぎっ

あ…っ
びくっ
びくっ
あ…ッ
あッ
あッ
は
は
は
は
お
お
一つに
なった
ちゅっ
んちゅっ
おっぷ
なれた
んおおっ
ぎゅっ
ちゅっ
みちゅっ
ちゅぱっ
ギシッ
明日香ちゃんと―
ガクガク
プルプル
う、
う、うごけない…っ
フーッ
フーッ
フーッ

す…少しずつ
ふぉー
ふぉー
ゆら…
ア
ガワガワ
ふ
ぐ
ぷっ

あっ
はいるっ入ってるー…ッ
あっ
あぁー
あぁー
いっ
ア
ーッ
俺の精液ぃ…明日香ちゃんの中っ
体内っ…胎内…にぃ…くふぅウ！
感無量…ッ
ガレッ
ぴゃるるるるー
ぴゃるる
ぴゃるる
ぐぐぐ
おっ
ブルルルル
ブルルルル
おっ

は——

明日香ちゃんと…

000

は——

こんな形だったけど

000

ふう

一つになれて幸せー

000

お〜〜〜

ゆっさ

ゆっさ

パチ

いやあああああッ
大きい声出すとパパとママが…
危ないよ
夢じゃなかった
夢じゃなかった

ガコガコ
ばっっっん
ばっっっん
ばっっっん
あっ
あっ
アッ
ア
ヤッ
うたい
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ぐっ
ぐっ
じゅっっっ
ずっぐ
じゅっっっ
ずっぐ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
ぐっ
あっ
あが
あが
あが
あら
らあ
ぐっ
じゅぐっ
じゅぐっ
じゅ

ガクくん
ラギャ
はぁぁ
ぶるるるるーー
ビュクッ
ビュクッ
…よ、4回目ともなると結構スムーズなエッチになったなぁ
びくっ
びくっ
びくんっ
ぶるるる
良かったよ明日香ちゃん
あ…
あ…

俺は―

ア―…

ア―…

雨のおかげで

あそこで出会えて

良かった

約束どおり

あっ

パパとママには何もしないからね

安心して

明日香ちゃん
う…
あ
?
ガバッ

味、忘れないでー

んっ

んおおおおおっ

おっ

おっ

ポジュッ

ポジュッ

ブッコッ

ブッコッ

ポ

ゲ

ちゅぱぱ〜〜〜

ちゅる

すぽんっ

ごぽぽぽ〜〜

ゴペ

ボ

るらん♪

俺は忘れないよ

おにいさん♥

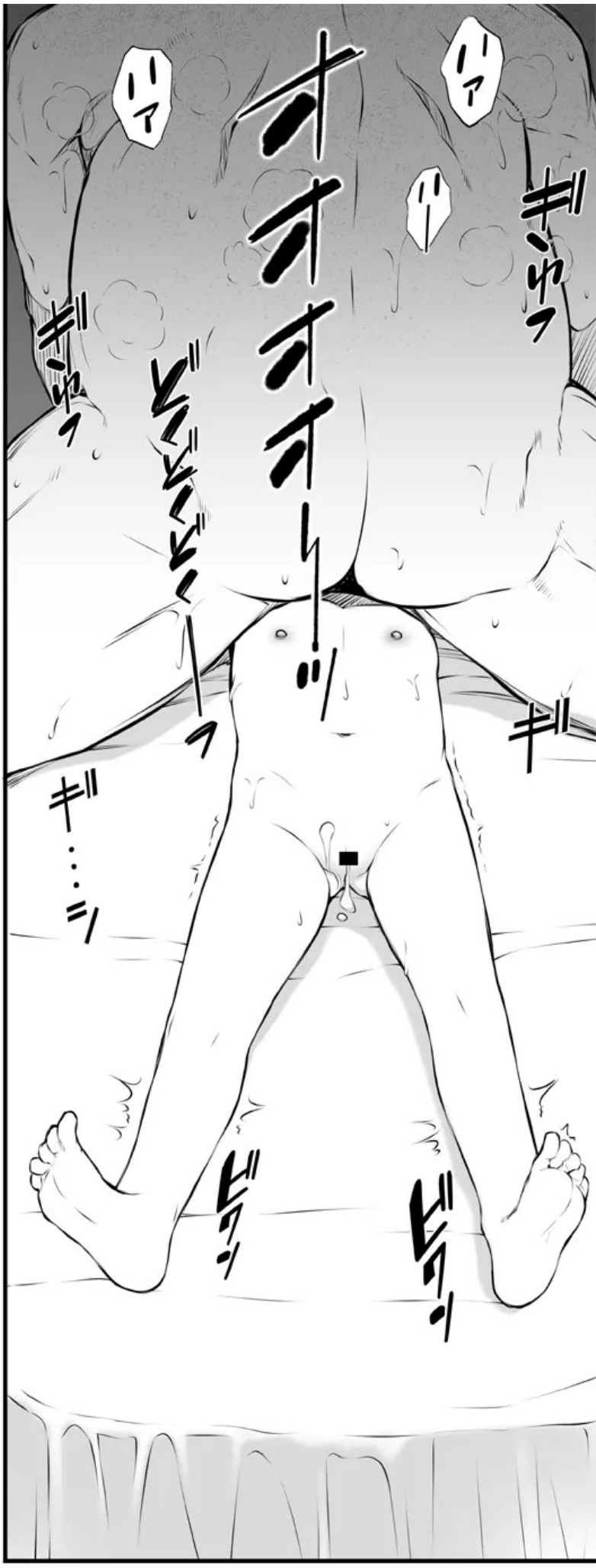
だ〜い好き♥

ハァ

ハァ

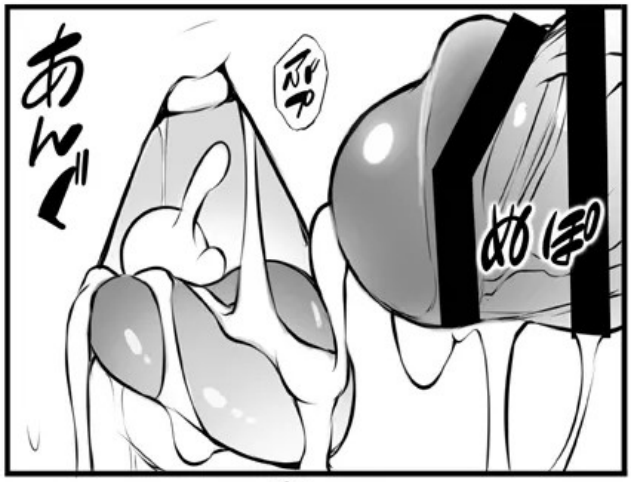
出そう

有りえたかもしれない
未来の想像…妄想と一緒に


ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ビクッ
ビクッ

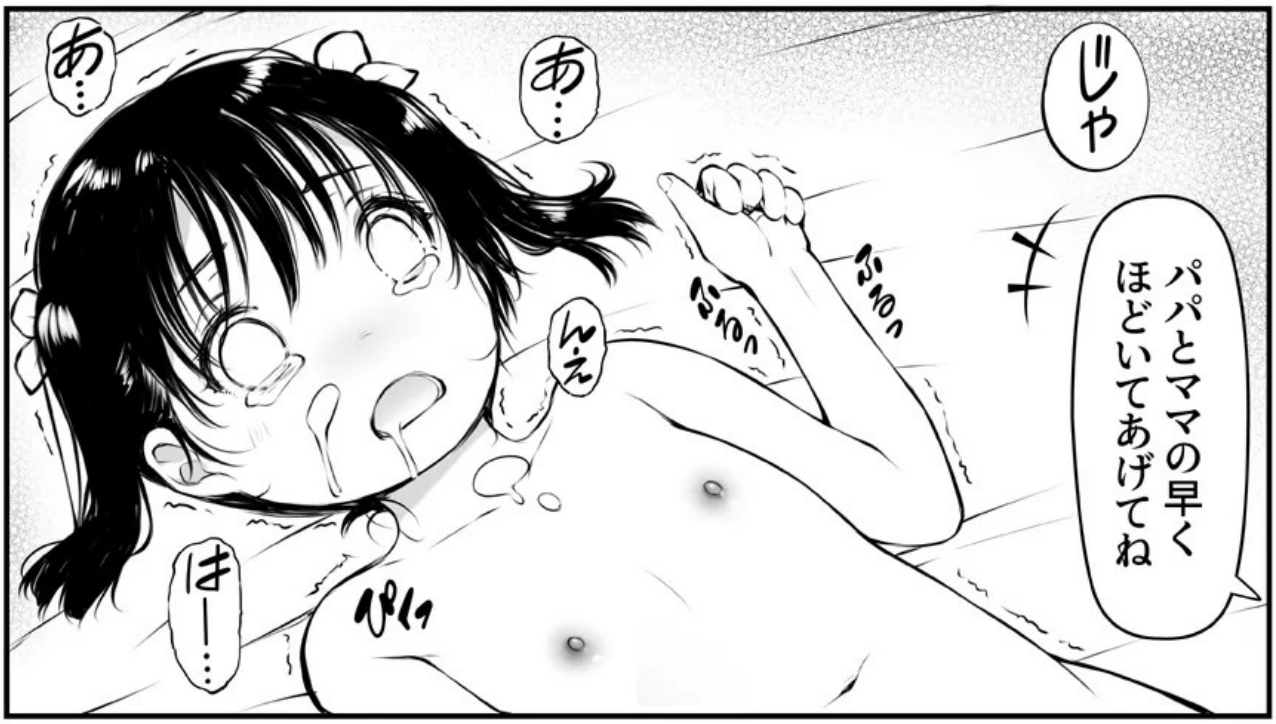
びゅっ
びゅっ
びゅっ
ごぽ
ごぽ

ごぽーっ


あんぐ
ごぽ
めぼ

よく飲めたね
おっ
あう
あう
だばー

ジー
くいっ
くいっ
ちゃっ
ちゃっ


じゃ
パパとママの早くほどいてあげてね
あ…
あ…
あ…
んぇ
ぱしっ
ぱしっ
ぱしっ
は―…

ガチャ
おっ

雨…やんでるわ
ウ
ウ
ウ…
END

※この作品はフィクションです。
実在の人物や団体などとは関係ありません。

あとがき

サークル初のマンガ形式でお届けしました。
マンガだと少女の機微も色々出せるところ…イイですねえ
最初なので、上記の表現をメインにオーソドックスめな流れ
ベタなワンタイムワンプレイスを、と今作を企画したのですが…
やっぱり？「場所」を変えてみたりしたく～
いったん？家に少女帰宅させたりしました～
インターバルを入れた方が「襲われる」の生々しさが
出てくれるかな、と。気に入っていただければ幸いです。

by　ささざか剛　丘ぬんし　横十輔

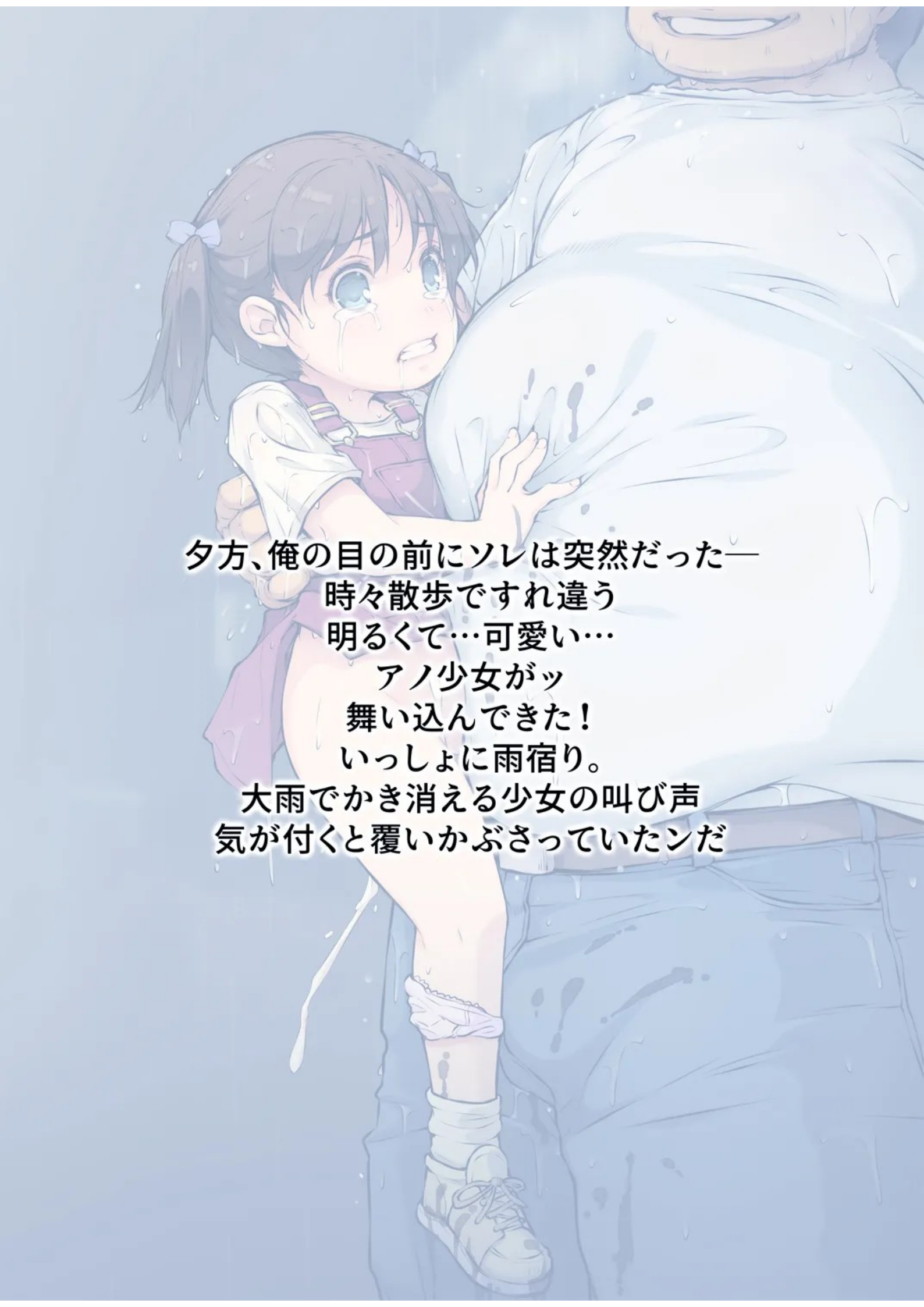
奥付

サークル：黒毛と桃汁

HP：http://www.iinari-b.com/magari_kuro

発行日：2025年12月18日
発行人：横十輔

転載禁止 DO NOT REPOST 禁止转载


夕方、俺の目の前にソレは突然だった―
時々散歩ですれ違う
明るくて…可愛い…
アノ少女がッ
舞い込んできた！
いっしょに雨宿り。
大雨でかき消える少女の叫び声
気が付くと覆いかぶさっていたンだ